

第32回
日本生命倫理学会
年次大会

<大会テーマ>

価値観と文化の多様性にむきあう生命倫理学

◆会期

ライブ配信：2020年12月5日（土）・12月6日（日）

オンデマンド配信：2020年12月5日（土）～12月20日（日）

◆開催方法：オンライン

◆大会長：松田 純（静岡大学）

◆後 援：静岡大学

日本生命倫理学会

大会長 松田 純（静岡大学）

かつてなく地球が狭くなったグローバリゼーションの時代に、未曾有のパンデミックが襲いかかっています。まず初めに、この危機に最前線で立ち向かっている医療・保健衛生関係の方々の献身的な活動に心から敬意を表します。

COVID-19 の感染拡大防止のため、第 32 回日本生命倫理学会年次大会は Web 開催の形態をとります。史上初の試みです。このような異例の形態に変更するにあたって、会員の皆様ならびに学会理事会のご理解と全面的なご支援をいただくことができましたことに改めて感謝申し上げます。それに支えられて、大会実行委員会は初めての経験にとまどいながら、準備を進めてまいりました。

困難な状況にもかかわらず、会員の皆様から積極的な応募とご協力をいただき、一般演題 28 件、シンポジウムとワークショップ 16 件をご用意することができました。一般演題の発表は Web 上でデータを公開し、12 月 5 日（土）～12 月 20 日（日）の期間中いつでも、繰り返し視聴可能です。

シンポジウムとワークショップは ZOOM によるライブ配信を行い、双方向の議論も可能です。

本学会は COVID-19 感染拡大を受け、COVID-19 の倫理に関する情報を集約し、学会員、市民の皆様とともに COVID-19 の倫理について検討するため、「COVID-19 の倫理タスクフォース」を立ち上げました。学会企画シンポジウム「パンデミックの生命倫理：COVID-19 をめぐって」では、これまでの活動をふまえて、COVID-19 パンデミックに対して生命倫理学として何ができるかを問うものです。ほかにも COVID-19 関連のシンポジウム等が複数開催されます。活発な議論が展開されますことを期待しています。

本大会のテーマは「価値観と文化の多様性にむきあう生命倫理学」です。これの趣旨説明は大会長講演のページでご確認ください。本来であれば、大会企画シンポジウム「ヨーロッパ生命倫理はどこへ向かうのかーフランス生命倫理法改正から考える」、「北欧のケアと生命倫理」で、このテーマに沿って、海外の研究者（フランス国家倫理諮問委員、ドイツや北欧の専門家など）も招聘し、グローバルな視点から討論する予定でしたが、大幅な渡航制限が続くなか断念せざるを得ませんでした。しかし、日頃から文化の多様性と生命倫理学との関係に注目してこられた研究者のご研究の蓄積の上に、大会テーマが深められますことを期待しております。

一つの空間を共有し議論するという対面形式には及ばないかもしれませんが、大会が終了した時点で、Web 大会ならではの「良さ」に気づき、思わぬ収穫があったと思えることをひそかに期待しています。皆様方の積極的なご参加をよろしくお願い申し上げます。

第32回年次大会実行委員会

大会長	松田 純（静岡大学）
実行委員長	堂園 俊彦（静岡大学）
実行委員	青田 安史（大会事務局長、常葉大学）
	神馬 幸一（大会副事務局長、獨協大学）
	天野 ゆかり（大会会計、静岡県立大学）
	會澤 久仁子（国立循環器病研究センター）
	小出 泰士（芝浦工業大学）
	鍾 宜錚（大谷大学）
	竹下 啓（東海大学）
	中澤 栄輔（東京大学）
	浜渦 辰二（上智大学）
	本家 淳子（浜松医科大学）
	松原 洋子（学会企画委員長、立命館大学）
	伊吹 友秀（学会事務局長、東京理科大学）

参加者へのご案内

第32回日本生命倫理学会年次大会は、例年とは異なり、オンライン会議システム（ZOOM）および学会ホームページを利用して開催いたします。この案内をよくお読みください。年次大会に関する最新情報は学会ウェブサイトにて随時ご案内しておりますので、あわせてご参照ください。

1. 開催期間

- ZOOMによるライブ配信：12月5日（土）・6日（日）
- 学会ホームページ上での映像配信：12月5日（土）～20日（日）
⇒ 12月9日（水）以降、ライブ配信した映像をご覧いただけます。

ライブ配信	オンデマンド配信
• 開会式 • 大会長講演 • 大会企画シンポジウム • 学会企画シンポジウム • 大会特別企画 • 公募シンポジウム • 公募ワークショップ • 市民公開企画	• 一般演題 12月9日以降 • 大会長講演 • 大会企画シンポジウム • 学会企画シンポジウム • 大会特別企画 • 公募シンポジウム • 公募ワークショップ • 市民公開企画

2. 参加申し込み

年次大会へ参加するには、事前登録が必要になります。また、会員と非会員では、事前登録の方法が異なりますので、ご注意ください。

【参加登録期間】

2020年9月28日（月）～12月18日（金）

- ZOOMによるライブ配信をご覧になりたい方は、12月4日（金）までに必ずご登録ください。
- 印刷された抄録集の送付を希望する方は、必ず10月31日（土）までにお申し込みください。

【会員参加登録方法】

1. 日本生命倫理学会会員専用サイト（<https://c3.members-support.jp/ja-bioethics/>）にアクセスしてください。
2. ログインID（会員番号）とパスワードを入力し、ログインしてください。
3. パスワードをお忘れの場合は「パスワードを忘れた方はこちら」をクリックしてください。
4. ログインID（会員番号）を忘れた方は事務局（admin@ja-bioethics.jp）へお問い合わせください。
5. 「イベント情報」⇒「イベント申込」に進んでください。
6. イベント名「第32回 年次大会（静岡）ーオンライン開催」の欄の「受付中」より、お申し込みを開始してください。

7. お申し込み終了後、ご登録のメールアドレスに大会参加者専用サイトのパスワードをお送りします。

※ お支払いに関する詳細なナビゲーションは大会ウェブサイトを御覧ください

※ 不具合等のお問い合わせは以下までお願い申し上げます

しくみねっとサポート <https://c3.members-support.jp/ja-bioethics/InquiryForms>

情報委員会 information@ja.bioethics.jp

【非会員登録方法】

1. Peatix経由で登録をしていただきます。
2. <https://ja-bioethics-conference-32.peatix.com>にアクセスし、ナビゲーションに沿って登録を開始してください。

3. 参加費

- 正会員 ----- 5,000円
- 学生会員・会友 ----- 2,000円
- 非会員 ----- 6,000円

- ・ 参加登録後のお申込み取消しは、お受けいたしかねます。お支払いいただいた参加登録費は返金いたしません。
- ・ 2020年度の会費を未納入の日本生命倫理学会会員の皆様は、非会員の価格が適用されます。大会参加登録に先立って、2020年度分の会費をご納入ください。

4. 評議員会・理事会・総会

以下の日時で行われる予定です。いずれもオンラインで開催します。

評議員会：5 日（土）12:30～13:30

理 事 会：6 日（日）12:20～13:20

総 会：6 日（日）13:20～14:20

5. 大会特別企画

- ・ 5日（土）15:20～18:10に、大会特別企画「ラウンドテーブル・ディスカッションで学ぶ臨床倫理コンサルテーション～立ち上げから運営まで～」を開催します。
- ・ 後半のラウンドテーブル・ディスカッション（RTD）に関しては、学会参加登録とは別に、参加者の募集を行います。応募方法については、会員向けメーリングリスト、大会ホームページ等でお知らせします。
- ・ RTDへの応募者が定員をオーバーした場合には、選考を行います。選考の結果参加できなかった場合にも、大会参加費の返金はいりません。（前半の講義セッションは、大会参加者であれば、誰でも視聴可能です。）

6. 市民公開企画

- ・ 6日（日）16:10～17:40 の「再生医療の治療と研究はどう違うのか？—治療を受けたいときに考えること—」に限り、事前登録をしていない人にも無料で公開します。
- ・ 参加方法については、大会ホームページをご覧ください。

- 上記日時以外については、事前登録と参加費の支払いが必要になります。

7. ライブ配信（ZOOMミーティング・ウェビナー）参加の注意点

- ZOOMミーティング・ウェビナーへの参加方法については、大会ホームページにおいて公開されている参加者向けZOOMマニュアルを参照して下さい。
- 複数の動画を同時に視聴することはできません。
- 安定な通信のため、有線LANでの接続を推奨します。
- スマートフォンでの視聴は推奨しておりません。
- ZOOM ミーティング・ウェビナーの内容を何らかの方法で録画・録音することはしないでください。
- ZOOM ミーティング・ウェビナーの ID、パスワードを他人に知らせることはしないでください。

8. オンデマンド配信に関する注意点

- 動画コンテンツを端末にダウンロードすることはしないでください。
- 発表資料、参考資料など大会参加者専用サイトに掲載されている大会コンテンツを他人に提供することとはしないでください。

9. その他

- 大会ポスターは年次大会ホームページ (<https://ja-bioethics.jp/conference/top32/>) からダウンロードしていただけるようにする予定です。

★ 議論の時間を十分に確保するため、時間厳守をお願いいたします。

1. シンポジウム、ワークショップ

【発表方法】

- ZOOMによるライブ配信（12月9日以降は、録画した動画がオンデマンド配信されます）。

【時間配分】

- シンポジウムは、90 分のうち、報告時間が60 分以内、フロアを交えたディスカッションが30 分以上となります。
- ワークショップは、90 分のうち、報告時間が45 分以内、フロアを交えたディスカッションが45 分以上となります。
- ディスカッションにおいては、オーガナイザーはフロアとのコミュニケーションを重視して進行してください。具体的な質疑応答の方法については、大会ホームページにおいて公開している**座長・発表者向けZOOM使用マニュアル**をご覧ください。

【リハーサル】

- 11月中旬から下旬に、ZOOM接続のリハーサルを実施する予定です。詳細についてはあらためてオーガナイザーの方へ連絡を差し上げます。

2. 一般演題

【発表方法】

- 今回の大会では、大会ホームページ上でのオンデマンド型の発表の方法を採用します。動画、音声、PDF ファイルを公開できるようにします。具体的な発表方式に関しては、以下の表をご覧ください。

	発表形式	発表ファイルの条件	備考
発表方法① <u>推奨</u>	15 分以内の動画による発表	<u>画質</u> HD (720p : 1280×720) <u>動画形式</u> 原則として MPEG-4 ビデオ (.mp4)。ただし他の形式にも対応できるようにします。	自著論文や補遺図表など、参考資料を掲載することもできます（5 点以内を目安、PDF 形式）
発表方法②	15 分以内の音声による発表＋プレゼンテーションファイル	<u>音声ファイル</u> MP3 (.mp3) <u>プレゼンテーションファイル</u> PDF	
発表方法③	プレゼンテーションファイル	<u>プレゼンテーションファイル</u> PDF	

【データ送付〆切】

- 11月20日（金）までに、提出して下さい。具体的な提出方法については、あらためて連絡を差し上げます。

【動画作成ガイダンス】

- 一般演題発表者を対象に、情報委員会主催による動画作成のためのガイダンスを開催予定です。詳細については、あらためて連絡を差し上げます。

ライブ配信タイムテーブル

第1日目 12月5日(土)

	ミーティングルーム A シンポジウム	ミーティングルーム B シンポジウム	ミーティングルーム C ワークショップ		学会 ZOOM ミーティング
9:30-9:40	開会式				
9:40-10:40	大会長講演 (1-A-1)				
10:40-10:50	休 憩				
10:50 ～ 12:20	日本、台湾、韓国における終末期医療の法政策とその文化的・社会的背景の検討 ― 「良い死」の概念とその実践を中心に (1-A-2)	医療系倫理委員会の現在 (いま) (1-B-1)	新型コロナウイルス感染症を巡り、新しい倫理的問題が生じているのか (1-C-1)		
12:20～13:40	昼 食				評議員会 12:30～13:30
13:40 ～ 15:10	大会企画 シンポジウム I ヨーロッパ生命倫理はどこへ向かうのか ― フランス生命倫理法改正から考える ― (1-A-3)	With コロナ時代のリビングウイル、ACP (人生会議) を考える: ごく当たり前の意思表示を目指して (1-B-2)	中・高大連携におけるバイオエシックス教育―実践報告・今後の課題と展望― (1-C-2)		
15:10～15:20	休 憩				
15:20～16:50	ゲノム合成時代における先端生命科学技術とバイオセキュリティ (1-A-4)	生殖補助医療を利用した多様な家族形成における倫理的課題の検討―医療者、レシピエント、ドナーの声を通じて― (1-B-3)	大会特別企画 ラウンドテーブル・ディスカッションで学ぶ臨床倫理コンサルテーション―立ち上げから運営まで (1-C-3)		
			前半 (15:20-16:50) 講義セッション 後半 (17:00-18:10) ラウンド・テーブル・セッション (このセッションへの事前登録者のみ参加可能)		

第2日目 12月6日（日）

	ミーティングルーム A シンポジウム	ミーティングルーム B シンポジウム	ミーティングルーム C ワークショップ	ミーティングルーム D	学会ZOOM ミーティング
9:00 ～ 10:30	臨床倫理委員会のあり方を探る (2-A-1)	ワクチンへの期待が高まる中で HPV ワクチン接種被害を問う (2-B-1)	当事者・市民協働参画と新型コロナウイルス (COVID-19)パンデミック (2-C-1)	若手論文奨励賞 受賞講演 (9:45～10:30)	
10:30～ 10:40	休 憩				
10:40 ～ 12:10	大会企画シンポジウムⅡ 北欧のケアと生命倫理 (2-A-2)	家族と医療者の協働意思決定の対話に迫る一何を共有し、いかに分かち合うか (2-B-2)	日本における患者・市民参画 (PPI) を考えるー3つの実践の現場から (2-C-2)		
12:10～ 13:20	休 憩				理事会
13:20～ 14:20	総 会				
14:20～ 14:30	休 憩				
14:30 ～ 16:00	学会企画シンポジウム パンデミックの生命倫理：COVID-19 をめぐって (2-A-3)	医学研究者の倫理的意思決定と組織環境の評価尺度 (2-B-3)	定式化しない倫理カンファレンスの可能性ーMCDの受容と新たな展開 (2-C-3)		
16:00～ 16:10	休 憩				
16:10 ～ 17:40	市民公開企画 再生医療の治療と研究はどう違うのか？ー治療を受けたいときに考えること (2-A-4)	診療記録における遺伝情報の管理は、遺伝子例外主義を乗り越えるべきか (2-B-4)	より良い最期を迎えるための人生会議の在り方についてーコロナを挟んで、終末期における倫理的課題及び死生観は変化するのか (2-C-4)		

第 32 回日本生命倫理学会年次大会 プログラム

第 1 日目 : 12 月 5 日 (土)

ミーティングルーム A (ZOOM ライブ配信)

09:30~09:40 開会式 大会長 : 松田純 (静岡大学)

09:40~10:40 大会長講演 (1-A-1)

価値観と文化の多様性にむきあう生命倫理学

松田純 (静岡大学)

10:50~12:20 公募シンポジウム I (1-A-2)

日本、台湾、韓国における終末期医療の法政策とその文化的・社会的背景の検討 —「良い死」の概念とその実践を中心に—

オーガナイザー : 鍾宜錚 (大谷大学真宗総合研究所東京分室)

台湾における終末期医療の法制度と「善終」概念の実践

鍾宜錚 (大谷大学真宗総合研究所東京分室)

日本の終末期医療に関する法政策の現状と文化的・社会的背景

田中美穂 (日本医師会総合政策研究機構)

韓国における「延命医療決定法」と「良い死」をめぐる議論

洪賢秀 (明治学院大学社会学部附属研究所・東京大学医科学研究所)

13:40~15:10 大会企画シンポジウム I (1-A-3)

ヨーロッパ生命倫理はどこへ向かうのか — フランス生命倫理法改正から考える —

オーガナイザー : 小出泰士 (芝浦工業大学)

フランス生命倫理の基本理念について

小出泰士 (芝浦工業大学)

フランス生命倫理法改正と生命倫理三部会の試み

香川知晶 (山梨大学)

生命倫理法改正にみる規範形成過程における市民の役割

小林真紀 (愛知大学)

15:20~16:50 公募シンポジウム II (1-A-4)

ゲノム合成時代における先端生命科学技術とバイオセキュリティ

オーガナイザー : 四ノ宮成祥 (防衛医科大学校分子生体制御学講座)

指定討論者 : 児玉聡 (京都大学大学院文学研究科)

合成生物学がもたらすデュアルユース問題について

四ノ宮成祥 (防衛医科大学校分子生体制御学)

合成生物学並びに Genome Project-write の現状について

相澤康則 (東京工業大学生命理工学院)

先端生命科学がもつバイオセキュリティ上の課題

河原直人 (九州大学病院 ARO 次世代医療センター)

先端生命科学の進歩に伴う倫理的・法的・社会的課題をどう捉えるか

三成寿作 (京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門)

第1日目：12月5日（土）

ミーティングルームB（ZOOM ライブ配信）

10:50～12:20 公募シンポジウムⅢ（1-B-1）

医療系倫理委員会の現在（いま）

オーガナイザー： 旗手俊彦（札幌医科大学）

人を対象とする医薬学系研究に対する倫理審査委員会のあり方

野崎亜紀子（京都薬科大学）

臨床倫理委員会の構成と機能

丸山英二（神戸大学）

倫理審査の質の確保と委員会事務局の役割

横野恵（早稲田大学）

13:40～15:10 公募シンポジウムⅣ（1-B-2）

With コロナ時代のリビングウィル、ACP（人生会議）を考える： ごく当たり前の意思表示を目指して

オーガナイザー： 板井孝老郎（宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科生命・医療倫理学分野）

エンドオブライフケアの中核概念としてのアドバンス・ケア・プランニング（ACP）

ー 人生会議の今後を考える上で鍵となる人生の物語のピース ー

西川満則（国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部/エンドオブライフケアチーム）

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）時代のリビング・ウィル

満岡聡（日本尊厳死協会理事）

厚労省ガイドラインと ACP（人生会議）の理念を考える

浜渦辰二（上智大学グリーフケア研究所）

15:20～16:50 公募シンポジウムⅤ（1-B-3）

生殖補助医療を利用した多様な家族形成におけるの倫理的課題の検討

ー 医療者、レシピエント、ドナーの声を通じてー

オーガナイザー： 入澤仁美（兵庫医科大学，順天堂大学）

「出自を知る権利」をめぐる ELSI（倫理的・法的・社会的課題）

ー DC を利用した当事者、出生児、医療者が望む情報の観点からの検討 ー

入澤仁美（兵庫医科大学，順天堂大学）

性の多様な家族における共助の老成学的考察

稲垣恵一（日本赤十字豊田看護大学）

ファンタスマゴリーとしての生殖補助医療 ー「倒錯」概念から血縁主義に基づく搾取について考える

水野礼（名古屋大学，名古屋市立大学）

ドナーとレシピエントを支援する上での気づき ー NPO 法人 OD-NET の活動を通じて ー

岸本佐智子（NPO 法人・卵子提供登録支援団体「OD-NET」）

代替的 ART 利用をどう考えるか ～ 親も一対（ワン・ペア）である必要はない

村岡潔（岡山商科大学）

第1日目：12月5日（土）

ミーティングルームC（ZOOM ライブ配信）

10:50～12:20 公募ワークショップⅠ（1-C-1）

新型コロナウイルス感染症を巡り、新しい倫理的問題が生じているのか

オーガナイザー： 稲葉一人（中京大学法務総合教育研究機構）
報告者： 松村優子（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻博士後期過程）
恋水諄源（市立福知山市民病院形成外科）
武ユカリ（関西医科大学看護学部在宅看護学領域）
峯村優一（京都府立医科大学 医学生命倫理学）
中岡成人（一般社団法人哲学相談おんころ）

13:40～15:10 公募ワークショップⅡ（1-C-2）

中・高大連携におけるバイオエシックス教育

— 実践報告・今後の課題と展望 —

オーガナイザー： 丸山マサ美（九州大学大学院医学研究院）
報告者： 鈴木美香（京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門）
川勝和哉（兵庫県立姫路東高等学校）
丸山マサ美（九州大学大学院医学研究院）
コメンテーター： 木村利人（早稲田大学）

15:20～18:10 大会特別企画（1-C-3）

ラウンドテーブル・ディスカッションで学ぶ臨床倫理コンサルテーション ～ 立ち上げから運営まで ～

オーガナイザー： 竹下啓（東海大学）
本家淳子（浜松医科大学）
講師： 本家淳子（浜松医科大学）
竹下啓（東海大学）
武市尚子（千葉大学）
金城隆展（琉球大学）

第2日目：12月6日（日）

ミーティンググループA（ZOOM ライブ配信）

09:00～10:30 公募シンポジウムVI（2-A-1）

臨床倫理委員会のあり方を探る

オーガナイザー： 瀧本禎之（東京大学）

長尾式子（北里大学）

東海大学医学部附属病院倫理委員会の概要と臨床倫理委員会をめぐる今後の課題

竹下啓（東海大学）

東京慈恵会医科大学柏病院臨床倫理委員会・コンサルテーションチームの活動について

三浦靖彦（東京慈恵会医科大学）

当院での活動の紹介と臨床倫理支援のあり方について

金田浩由紀（関西医科大学）

琉球大学病院臨床倫理委員会の概要とその在り方に関する検討

金城隆展（琉球大学医学部附属病院）

10:40～12:10 大会企画シンポジウムII（2-A-2）

北欧のケアと生命倫理

オーガナイザー： 浜渦辰二（上智大学）

生命倫理と社会生活の倫理 — スウェーデンの包括的な「福祉」の思想を導きに

竹之内裕文（静岡大学）

スウェーデンにおける知的障害者福祉と生命倫理

是永かな子（高知大学）

オープンダイアログ・アプローチにおける治療とケアの思想

石原孝二（東京大学）

14:30～16:00 学会企画シンポジウム（2-A-3）

パンデミックの生命倫理：COVID-19 をめぐって

オーガナイザー： 松原洋子（立命館大学）

COVID-19 パンデミックと生命倫理の諸問題

児玉聡（京都大学）

COVID-19 の生政治と生命倫理

美馬達哉（立命館大学）

16:10～17:40 市民公開企画（2-A-4）

再生医療の治療と研究はどう違うのか？ — 治療を受けたいときに考えること —

オーガナイザー： 一家綱邦（国立がん研究センター医事法研究室）

藤田みさお（京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門）

第2日目：12月6日（日）

ミーティングルームB（ZOOM ライブ配信）

09:00～10:30 公募シンポジウムⅦ（2-B-1）

ワクチンへの期待が高まる中で HPV ワクチン接種被害を問う

オーガナイザー： 佐々木香織（小樽商科大学）

HPV ワクチン接種被害について

打出喜義（金城大学）

予防医学の生命倫理 ～ HPV ワクチンを題材にして

村岡潔（岡山商科大学・西本願寺あそか診療所）

HPV ワクチン接種被害の社会的考察

井上芳保（苫小牧駒澤大学）

HPV ワクチンにおける科学ジャーナリズムの倫理的責任

佐々木香織（小樽商科大学）

10:40～12:10 公募シンポジウムⅧ（2-B-2）

家族と医療者の協働意思決定の対話に迫る ～ 何を共有し、いかに分かち合うか ～

オーガナイザー： 笹月桃子（西南女学院大学保健福祉学部・九州大学病院小児科）

「対話」は成り立っているか？

加部一彦（埼玉医科大学総合医療センター新生児科）

小児医療における医師との対話：家族からみた協働意思決定のあり方

櫻井浩子（東京薬科大学薬学部）

一人ひとりの子どもに個別の価値を創成する対話

笹月桃子（西南女学院大学保健福祉学部・九州大学病院小児科）

14:30～16:00 公募シンポジウムⅨ（2-B-3）

医学研究者の倫理的意識決定と組織環境の評価尺度

オーガナイザー： 瀬戸山晃一（京都府立医科大学医学研究科医学生命倫理学）

研究公正とかかわる内面的要素の測定 ― 既存尺度の応用可能性の検討から ―

景山千愛（京都府立医科大学医学研究科医学生命倫理学）

組織環境の評価尺度 ― SORC の分析を通して ―

峯村優一（京都府立医科大学医学研究科医学生命倫理学）

医療系研究者・医療従事者の倫理的意識決定能力に影響を与える環境要因の検討

吉井健悟（京都府立医科大学医学研究科生命基礎数理学）

16:10～17:40 公募シンポジウムⅩ（2-B-4）

診療記録における遺伝情報の管理は、遺伝子例外主義を乗り越えるべきか

オーガナイザー： 竹下啓（東海大学医学部）

遺伝子例外主義の現在と日本における診療上の遺伝情報の取扱い

丸祐一（鳥取大学地域学部）・高島響子（国立国際医療研究センター）

診療記録における遺伝情報管理の実態調査

鈴木みづほ（東海大学医学部）

遺伝情報の共有とゲノム医療実地における課題

平沢晃（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科）

第2日目：12月6日（日）

ミーティングルームC（ZOOM ライブ配信）

09:00～10:30 公募ワークショップⅢ（2-C-1）

当事者・市民協働参画と新型コロナウイルス（COVID-19）パンデミック

オーガナイザー： 北原秀治（東京女子医科大学解剖学教室）
吉田智美（筑波大学理工情報生命学術院システム情報工学研究群）
報告者： 杉原正子（独立行政法人国立病院機構東京医療センター精神科）
細田満和子（星槎大学）
宿野部武志（一般社団法人ペイシェントフッド）

10:40～12:10 公募ワークショップⅣ（2-C-2）

日本における患者・市民参画（PPI）を考える — 3つの実践の現場から —

オーガナイザー： 加藤和人（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学分野）
古結敦士（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学分野）
報告者： 磯野萌子（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学分野）
古結敦士（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学分野）
山本ベバリーアン（大阪大学大学院人間科学研究科）

14:30～16:00 公募ワークショップⅤ（2-C-3）

定式化しない倫理カンファレンスの可能性 — MCD の受容と新たな展開

オーガナイザー： 徳永純（狭山神経内科病院）
報告者： 原敬（さいたま赤十字病院）
太田奈津子（狭山神経内科病院）
門岡康弘（熊本大学）
田代志門（東北大学）
服部健司（群馬大学）
堀井泰明（天使大学）

16:10～17:40 公募ワークショップⅥ（2-C-4）

より良い最期を迎えるための人生会議の在り方について

— コロナを挟んで、終末期における倫理的課題及び死生観は変化するのか —

オーガナイザー： 冲永隆子（帝京大学）
報告者： 足立大樹（ホームケアクリニック横浜港南）
川崎志保理（順天堂大学）
北原秀治（東京女子医科大学）
入澤仁美（兵庫医科大学、順天堂大学）

ミーティングルームD（ZOOM ライブ配信）

9:45～10:30 2020 年度若手論文奨励賞受賞者講演

座長： 武藤香織（学会研究開発委員長）

※ 受賞者・受賞題目に関しては、後日、詳細を公表

一般演題（オンデマンド配信）

A. 生命倫理の基本概念

01. 尊厳概念理解への一試論

小田中奎太（東北大学大学院情報科学研究科）

02. 自己所有権から見た臨床研究におけるインフォームド・コンセントの倫理的意義

種田佳紀（埼玉医科大学医学部）

03. 自律概念の再構築

森禎徳（群馬大学）

B. 研究倫理、産学連携

04. ヒト胚ゲノム編集の課題検討を契機とした研究審査体制の見直しに関する議論の分析

相京辰樹（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学）

加藤和人（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学）

05. 医学分野のオープンサイエンスのためのインフォームド・コンセントについての試論

有澤和代（東京大学医科学研究所）

神里彩子（東京大学医科学研究所）

06. 幹細胞研究・再生医療領域における Predatory Journal の実態：書誌データベースを用いた定量的分析

井出和希（京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門）

八田太一（京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門）

藤田みさお（京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門）

07. 研究倫理審査と感染症流行の「緊急事態」：海外の主な検討を題材に

井上悠輔（東京大学）

小門穂（神戸薬科大学）

08. 認知症の人を対象とした看護・介護・リハビリテーション領域の研究における倫理的配慮に関する現状と課題

佐伯恭子（千葉県立保健医療大学）

諏訪さゆり（千葉大学大学院看護学研究科）

09. 「治療との誤解」再考

高井寛（国立がん研究センター）

10. 臨床医の医学研究活動を阻害する要因の解明

武井陽子（宮崎大学医学部附属病院臨床研究支援センター）

岩江荘介（宮崎大学医学部附属病院臨床研究支援センター）

門脇ゆう子（久留米大学大学院医学研究科博士課程 社会医学系バイオ統計学専攻）

11. 倫理的意思決定テストで誤解答の多かった医学研究者の属性とは？

吉井健悟（京都府立医科大学 医学研究科 生命基礎数理学）
峯村優一（京都府立医科大学 医学研究科 医学生命倫理学）
景山千愛（京都府立医科大学 医学研究科 医学生命倫理学）
瀬戸山晃一（京都府立医科大学 医学研究科 医学生命倫理学）

12. 製造販売後調査における高齢者のインフォームド・コンセントについて

脇之菌真理（国立長寿医療研究センター、藤田医科大学）
平島学（国立長寿医療研究センター）

C. 先端医療技術、医療化

13. 遺伝子・ゲノム解析技術をめぐる倫理 — 子と親・家族からみた「利益」と「害」をめぐる論点の整理 —

李怡然（東京大学医科学研究所）
木矢幸孝（東京大学医科学研究所）

D. 医療経済、資源配分、公共政策

14. Rare Disease 患者はどのように診断に辿り着くのか — HAE 当事者の経験に関する質的研究から

磯野萌子（大阪大学大学院医学系研究科）
小門穂（神戸薬科大学）
加藤和人（大阪大学大学院医学系研究科）

15. 質問票法による患者団体と製薬企業の意識のギャップ調査 ～ 患者団体と製薬会社の協働に関する調査（第一報）

吉田智美（筑波大学大学院理工情報生命学術院システム情報工学研究群（博士課程））
宿野部武志（一般社団法人ピーペック）
畑中和義（NPO 法人患者中心の医療を共に考え共に実践する協議会）

E. 臨床倫理、看護倫理

16. 臨床倫理コンサルテーションにおいて、確認すべき内容を初回返答とする提案

金田浩由紀（関西医科大学総合医療センター）
武ユカリ（関西医科大学看護学部）

17. 「臨床倫理」への具体性のある説明の提案 — 個人の医療・ケアにおいて、異なる価値を比較考量すること —

金田浩由紀（関西医科大学総合医療センター）
武ユカリ（関西医科大学看護学部）

18. 地域における倫理的支援の検討 ～りんりカフェの取り組みをとおして～

恋水諄源（市立福知山市民病院）
松村優子（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻博士後期過程）
武ユカリ（関西医科大学看護学部在宅看護学領域）
峯村優一（京都府立医科大学 医学生命倫理学）

F. 生殖医療、産育、家族

19. 沖縄における親子関係 — ひとり親の子どもを産む・育てるの語りから —

笹谷絵里（花園大学）

G. ケア、介護、福祉

20. 地域共生を發展させる医療的ケア児者の参加と課題 — 小児から成人への「移行期」を中心とした検討に基づいて —
山本智子（国立音楽大学音楽学部）

H. 終末期医療

21. 治療の差し控え・中止における「自己への配慮」と関係的自律
秋葉峻介（山梨大学／立命館大学）

22. 本邦の医療現場における代理意思決定に関する大規模横断調査

田中雅之（東北大学医学系大学院医療倫理学分野）
圓増文（東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学専攻公共健康医学講座医療倫理学分野）
大北全俊（東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学専攻公共健康医学講座医療倫理学分野）
浅井篤（東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学専攻公共健康医学講座医療倫理学分野）
尾藤誠司（東京医療センター臨床疫学研究室）

23. 人工透析の治療中止における患者の意思の確定方法

樋笠知恵（芝浦工業大学）

I. 宗教、思想、文化

24. 胎児付属物は特別なものか — 再生医療における医学的価値と社会的文化的価値

神里彩子（東京大学医科学研究所）
洪賢秀（東京大学医科学研究所）

L. 生命倫理教育

25. LGBT への理解を促進する医療人育成のための教育の検討

鶴若麻理（聖路加国際大学生命倫理学・看護倫理学領域）

26. 病院看護師の倫理研修に関する意識

中尾久子（九州大学医学部保健学科看護学専攻）
青木さとみ（九州大学医学部保健学科看護学専攻）
酒井久美子（九州大学医学部保健学科看護学専攻）
潮みゆき（福岡女学院看護大学看護学部）
金岡麻希（宮崎大学医学部看護学科）
木下由美子（宮崎大学医学部看護学科）

27. 道德教育は、Physician-Researcher の専門職化にどれほど寄与するか

柳橋晃（国立がん研究センター）
松井健志（国立がん研究センター）

M. その他

28. nhps における脳科学実験からの動物倫理への含意：日独中の三国間の指針の比較分析を手がかりに
戸田聡一郎（東京大学大学院情報学環）